

リアル政治学院  
交換留学報告書

静岡県立大学 国際関係学部

国際関係学科 4年 政治経済コース

約 10 か月の留学生活は、あっという間だったが、本当に充実した日々を過ごすことが出来たように思う。大変なこともたくさんあったが、嬉しいこともたくさんあり、刺激的な毎日を過ごすことが出来た。留学学生生活を振り返るにあたって、学校生活、課外活動、そしてコロカシヨンと呼ばれるシェアハウス暮らしの 3 つに分けて、報告したい。

まず、学校生活について述べたい。私が通っていたリール政治学院は、グランゼコールだ。バカロレアと呼ばれる試験に合格したうえで、さらに試験を受け合格した人だけが通うことができる、いわゆるエリート大学である。そのため、学校内では意識の高い学生が多く、常に図書館は満席状態だった。授業に関しては、リール政治学院は留学生を多く受け入れているため、留学生のプログラムが用意されており、英語で開講されているクラスとフランス語で開講されているクラスの両方を受けることができた。そこで、秋セメスターは英語とフランス語の授業を半分ずつくらいの割合でとり、春セメスターはフランス語のクラスのみを受講した。日本の大学の授業と異なり、一つの授業が 2 時間、3 時間続いたり、プレゼンテーションが多かったりと、授業はやはり大変だったが、先生も留学生に対して本当によく配慮してくれ、周りの友人にもたくさん助けをもらい、乗り越えることができた。非常に感謝している。

次に、学校外の課外活動としては、リールには日本人学校があり、1 月からそ

の手伝いを週に一度くらいの頻度でさせてもらっていた。その一環として、3月に行われた学校祭もお手伝いさせてもらうことになり、私は書道ブースを担当した。お祭りは大盛況で、沢山の日本人やフランス人が訪れていた。書道体験にもたくさんの方が体験をしに来てくださり、とてもいい経験をさせてもらった。

次に、私が体験したハウスシェアについてだが、本当に貴重な体験をさせてもらったと思う。ヨーロッパでは物価が高く、家賃も例外ではない。その為、学生の間ではコロカシヨンと呼ばれるハウスシェアをするのが一般的だ。日本にいる頃から、ヨーロッパの中でもフランスという多種多様な人々が暮らしている国で、一度はシェアハウスをしてみたいという気持ちがあった。そこで先生に相談してみたところ、例外として認めてもらえることになり、1月からの半年間、ハウスシェアをさせてもらった。もちろん初めは、ルームシェアも初めてながら外国の方とすることに、少し不安だったが、本当に人に恵まれ、結果として、みんなで沢山パーティーしたり、出かけたり、各国に一生大切にしたい友人ができた。思い出は沢山あるが、最も私が印象に残っているのは、初めてパーティーにみんなで行った後、飲み物を飲みながら色々なことを話した夜だ。学校のことや、恋愛の話で盛り上がり、どの国籍でもみんな同じ年頃の男女なのだと、当たり前なことだが実感した。日本に住んでいた頃は、外国の方と関わる機会は少なく、かつ関わるがあっても深い話までする関係ではなかった。そのせいもある

って、どこかかけ離れた存在として感じていたが、その意識が変わった夜だった。ポーランド、ドイツ、イタリア、日本と、誰もが母国語でないフランス語でコミュニケーションを取ることが、その時ふと滑稽に思えた。それはみんな同じだったようで、「不思議だけど素晴らしいわ！」と笑いながら話していたイタリア人の女の子の笑顔が忘れられない。

リールで過ごした10か月間を振り返ると、本当に人に支えられた日々だった。言語の壁はつらいものだったが、みんなとても優しくかった。リールに留学してよかったと思うことは、ほとんどの人がフランス語を話してくれるというところだ。そして、こちらがフランス語を話せることがわかると、「フランス語話せるのね！」と、とても喜んでくれる。パリやブリュッセルは、観光客が多いため、基本的に英語で対応されること多く、フランス語で話しかけても英語で返ってくるが多かった。この点は、私にとって本当にうれしかった。この10ヵ月、多くのことを学んだ。特に、あらゆる人との出会いの中で、自分の価値観をしっかり持ち、自分らしく生きることの素晴らしさ、大切さを学んだ。それらを教えてくれた仲間や、大学、友人、そして何より金銭面や精神面といったすべての面で支えてくれた家族に、心から感謝したい。今後は、学んだことを忘れずに、この貴重な経験を将来に活かしていきたい。